



優秀賞

東京都 ピーアークホールディングス株式会社 「東日本大震災復興支援」事業



ピーアークホールディングス株式会社 代表取締役社長
庄司正英さん

ホールならではの 支援のあり方を具体化した 「with youプロジェクト」

景品コーナーで東北物産フェアを実施

東京都を中心に埼玉県、千葉県、神奈川県の一都三県にホールを展開するピーアークホールディングスでは、東日本大震災後に「あなたの笑顔が、がんばる元気に」というキャッチコピーを掲げた「with youプロジェクト」を発足させ、義援金・支援金の寄付のほか、物資提供、ボランティア派遣などの被災地支援を続けている。

昨年7月には、パチンコホールならではの支援の形を具体化した取り組みとして、全店の景品コーナーで「東北物産フェア」を開催した。これは大震災の影響で販路を失った東北の企業や工場の商品を景品として仕入れてお客様に提供するもので、仕入マージンが直接、被災地に入る形になっていることから、お客様の善意の届け先が見えるとともに、被災地に仕事を生み出す支援ということができる。

仕入先の主だったところは、岩手県の第3セクター企業である岩手県産(株)や宮城県気仙沼市の水産加工物問屋などで、そこから仕入れた盛岡冷麺、じゃじゃ麺、ゆべし、ホタテ貝磯焼きなどが、ピーアーク全店の景品コーナーに並べられた。アイテムは季節や供給側の稼働状態に合わせて、一定期間ごとに随時、切り替えている。こうした継続的な支援により、たとえば事業継続が危ぶまれていた気仙沼市の小野信分店では、解雇していた従業員を再雇用できるようになったという。また、岩手県産(株)の代表である達増拓也岩手県知事から感謝のメッセージが寄せられた。

このほかにも、東京都足立区や東京都を通じて、福島県相馬市などに備蓄マスク10000枚、避難所となった宮城県石巻市の小学校にポケットティッシュ11500個を寄贈したほか、社団法人日本遊技関連事業協会の被災地派遣チームに参加し、支援物資の提供・配送や現地での瓦礫・汚泥撤去などのボランティア活動に取り組んだ。また、宮城県東松島市で開催された夏祭りに際し、射的プー



全店の景品コーナーで開催した「東北物産フェア」



お客様だけではなく、地域の方にもご協力いただき段ボール150箱分の衣類が集まった



宮城県東松島市で「がんばっぺ東松島 みんなで夏祭り」にぬいぐるみ、駄菓子、子ども用おもちゃ等を寄贈



社員ボランティア隊5名が、with you 活動の一環として、仙台市の六郷中学校を訪問し「ピーアーク緑日」を出店

スの景品となるぬいぐるみ、駄菓子、子ども用おもちゃなどを寄贈した。さらに、店頭で被災地域に衣料品を届けようと呼びかけたり、有志社員が被災地へ赴き、子どもたちを対象にした「ピーアーク緑日」などを行った。

お客様や地域の方々と一体となった活動

ピーアークグループでは支援活動の一環として全店に募金箱・募玉箱を設置し、来店されたお客様に善意の協力を呼びかける活動を実施したが、昨年12月31日までに集まった募金は総額約2085万円となったほか、社員・スタッフを対象に社内募金を行い、12月末時点で250万円を超える募金が集まった。こうした募金は日本赤十字社を通じて被災地に届けられた。さらに、社団法人関東ニュービジネス協議会による「NBC東日本大震災義援金」や「一刻も早く被災地にパンの缶詰を送る活動」、認定NPO法人世界の子どものワクチンを日本委員会による「JCV 子どもの笑顔プロジェクト」、被災地の子どもたち

ちを対象にサッカーボールの提供やアクティビティを行うロナウジーニョ財団の活動へ寄付などを行っている。

「with youプロジェクト」の活動の特色として特記すべきことは、その活動をプロジェクト単独で行うのではなく、お客様や地域の方々、さらにはピーアークホールディングスのステークホルダーなどと共に活動であるということである。たとえば、募金活動においては店頭で募金箱や募玉箱を設置するだけでなく、足立区福祉協議会の「足立311サポーター」による福島県相馬市への義援金の街頭募金活動に社員が参加する、あるいは株主総会の費用を削減し、その資金で仕事を失った東北の女性たちが作った「浜のミサンガ」を購入して、株主に配布するなどである。こうした活動を通じて、より多くの方々の復興への願いとともに歩むプロジェクトとすることができ、またこれまで接点がなかった方々とのつながりを築くことができたという。なお、「with youプロジェクト」は今後も継続することになっている。